

次の文章を読んで、〔(1)その内容を200語程度の英語で要約し、〕(2)その内容についてのあなたの意見を200語程度の英語で書きなさい。（2008年 東京外語・前期）

世界中の国々の言語で蓄えられた文化は、英語にはそのうちの微々たるものしか翻訳されていません。だから、英語を知ったからといって、それぞれの文化にアクセスできるわけではないのです。英語を知ったからといって、世界を知ることができるはずがないんです。英語によって知ることができるのは、英語にされているものだけですから。

昔、オランダ語のみを通してでは世界を知ることができなかつたように、ほんとうは英語だけを通して世界を知ることなどできないし、ある意味で、こういう形で英語を絶対化することは英語に対して失礼です。というのは、日本人が英語一辺倒になって、英語を重要視する最大の理由は、別に英語で蓄えられた文化に対して惹かれていくというよりも、その経済力とか軍事力に頼って生きていこうとしているからであって、ある意味では非常に打算的で下品なわけです。

ほんとうの国際化というのは、世界にあるさまざまな文化と、英語経由、オランダ語経由、中国語経由ではなくて、国と国同士が直接の関係を築くことなのです。国際というのは国と国とのあいだという意味ですから、これは言葉だけではなく、外交においても、文化交流においても、どこかの国、どこかの言葉を経由して---何か国語かを経由していくと、隔靴搔痒の感があります。そうではなくて、直接の関係を築いていくことがほんとうの国際化になる、国際交流になるし、理解にもつながるわけです。

これは大変なことなんです。大変な努力が必要ですし、時間もかかることですが、たった一つの言語を通してそれができると錯覚していることが、日本の国際化という病気の非常に大きな特徴だと思います。

これがいちばんよく表れているのがサミット、主要国首脳会議です。七カ国だったのが、今、ロシアも加わって八カ国になっています。このサミットの通訳のあり方に、この日本の特徴がいちばんよく表れています。これは国ごとに順ぐりに開かれて、もう二十八年以上たっています。日本でも七年に一度、開催されていて、二〇〇〇年に沖縄サミットが開かれました。その七年前に東京サミットがありました。

このサミットで行われる同時通訳の図式というのがあります。サミットは先ほど言った八カ国が参加します。そして言語は六つの言語を使います。これをいちいち逐次通訳をやっていたら六倍時間がかかりますから、同時通訳を使います。

このサミットの同時通訳は第一回開催以来ずっと二十八年間、この方式です。日本語を使うのは日本、英語を使うのはアメリカ、イギリス、カナダ、フランス語はフランスとカナダ---カナダはフランス語圏がありますから---それからドイツ語はドイツ、イタリア語はイタリア、ロシア語はロシアがそれぞれ使う言語です。

フランスのシラク大統領が発言すると、それは即座に直接、英語、ロシア語、イタリア語、ドイツ語に翻訳されます。ところが、日本語に通訳するには、いったん英語に訳されこの英語から日本語に訳されます。沖縄サミットの際は森さんが首相でした。森さんが日本語で発言すると、これが直接通訳されるのは英語だけ。フランス語にも、ドイツ語にも、イタリア語にも、ロシア語にも、英語を経由して訳されていく、つまり、リレーになってしまうわけです。

どうですか。この図式を見ると、日本語はなにか鎖国時代の長崎の出島みたいな感

じがしませんか。それぞれの国は、これだけ緻密な、緊密な関係を築いています。日本は常に英語を経由して築くということになります。

言葉というのは、単に意思を伝えたり、自分の感情や考えを伝える手段であるだけでなく、自分の感情や考えを整理したり、組み立てたりする、つまり、物事を考えるための手段でもあるのです。言葉はそれぞれその言葉を持って生きてきた民族の歴史や、文化地理、自然、それによって培われた世界観などを映して内包しているもの

ですから、常にこういうふうに英語を経由して伝えられるということは、いつも日本語が英語のフィルターのかかった形でほかの言語に伝えられるということになります。さらには微妙なニュアンスはすべて捨象されてしまいます。

こうして、すべてのサミット参加国が直接コミュニケーションしていたのに対して、日本だけが二十八年ものあいだ、ずっと英語経由になっていたのです。英語経由のフィルターをかけて交流してきたということ、それをなんとも思わなかった。これはかなり異常な事態なんですけれども、この異常事態を異常と思わなかったということこそが、異常だと私は思います。これは国際化というものを錯覚している、つまり、英語、世界最強の国の言語を通せば、世界を知ることができる、世界に発信することができる、世界から情報が取り入れられると錯覚しているところで成り立っているんです。

米原万里『米原万里の「愛の法則」』

(1) 【解答例】東京外国語大学がホームページで公開している要約の解答例です。

The true sense of becoming international is for each nation to establish direct relationships with various cultures of the world and not trying to access other cultures only through English, Dutch nor Chinese. Inter-national means between, or inter nations. We naturally feel frustrated if we have to go through a certain nation or a certain language, in order to access other nations, in not just languages but in diplomacy or inter cultural exchange. I think in order to become truly international and to have international exchange and understanding we need to establish direct relationships.

All the Summit participant countries had been in direct communication with one another but only Japan has communicated only through English in the past twenty eight years. But we didn't think much about the fact that we operated through this English filter for so long. I think it is extraordinary in the sense we Japanese did not take this extraordinary situation to be extraordinary. This stems from the fact that we have misunderstood the meaning of "internationalization"; that is to say, if we know English, the language of the dominant country in the world, we can know the world, we can communicate to the world and we can obtain information on all of the world. (209 words)

※(1)の「要約」についての解説・別解答例は「[英文要約\(要旨要約\)問題の解法](#)」で扱っています。

(2) 【解答例】 東京外国語大学がホームページで公開している解答例です。

I agree with the author that the fact that Japan has always thought it can communicate with the rest of the world in both input and output of information in one language, that is the language of the superpower at the time, can lead to bias in what type of information is brought into the country and also what type of information is sent out of the country. As the author correctly points out, any language is imbued with its own idiosyncratic way of thinking, history and culture. No matter how skilled the interpreters or translators there may be, thoughts cannot be accurately conveyed if filtered through multiple layers of communication. Needless to say, it is better to have a direct link with all the nations. I propose two things: One, we need to have good interpreters and translators in various languages not just in English-Japanese. I feel there is a lot this university can do in that respect. Two, we should encourage other countries to study Japanese more. In that respect as well, I think this university has a large role to play, and I look forward to becoming a part of this effort by obtaining a chance to study here. (202 words)

※200語という語数の多さを別とすれば、テーマだけを与えられ、自分の意見を組み立てていく際の参考となる課題文のない一橋(120語-150語)のほうが手強いとも言えるが、一橋の場合、三つのテーマの中から自分が書き易いテーマを選べるのに対し、テーマが特定されているので、不得手なテーマにぶつかると苦労することになる。どのようなテーマであっても短時間で自分の考えをまとめられ、それを英語で正しく表現できる人は別として、やはり課題文の内容と記述をうまく取り入れていく方法を身につけておいたほうが確実に得点できるだろう。いずれにしても相当な英作文(和文英訳)の力が求められることは間違いない。

※解答例の英文を見ると、語彙を含めて相当にレベルが高い。自信をなくす人が少なくないだろう。しかし、東京外語といえども、短時間でこれだけの英語を書ける受験生はごく一部だろう。したがって、別解答例はあえてもう少し平易で読み易い英語で書いてみよう。ただし、まず日本語で答えを書いて、それを英訳するという方法は、200語という語数からして時間的に不可能だろう。そこで、課題文に則して自分の意見のポイントとなる項目をメモ書きし、それぞれのポイントに課題文の内容を加えて膨らませていくという方法を試みる。すでに設問の(1)で要約を求められているので、単なる要約ではなく、あくまでも自分の意見の陳述の一部として引用する。なお、「その内容についてのあなたの意見を...書きなさい」という設問の趣旨から外れなければ、内容は何を書いてもよいわけである。また筆者の意見に賛成するか反対するかはもちろん自由だが、大学が本音としては(?)反対意見を是とするような課題文を意図的に提示している場合や、自分が実際に反対意見の持ち主であり、その明確な論拠を挙げられる場合以外は、賛成意見を述べたほうが無難は無難である。課題文の内容を活かせるからである。

※なお、最後の three sentences は実質的に東京外語の「志望動機」の陳述であり、一種の「ヨイショ」である。この部分だけで56語ある。まったく同じ内容を書くのはさすがにまずいが、これと似た手は使うことには大学が「お墨付きを」与えていると考えてよいだろう。

[課題文の内容を段落単位で確認]

①世界中の国々の言語で蓄えられた文化は、英語にはそのうちの微々たるものしか翻訳されていません。だから、英語を知ったからといって、それぞれの文化にアクセスできるわけではないのです。英語を知ったからといって、世界を知ることができるはずがないんです。英語によって知ることができるのは、英語にされているものだけですから。

②昔、オランダ語のみを通してでは世界を知ることができなかつたように、ほんとうは英語だけを通して世界を知ることなどできないし、ある意味で、こういう形で英語を絶対化することは英語に対して失礼です。というのは、日本人が英語一辺倒になって、英語を重要視する最大の理由は、別に英語で蓄えられた文化に対して惹かれているというよりも、その経済力とか軍事力に頼って生きていこうとしているからであって、ある意味では非常に打算的で下品なわけです。

③ほんとうの国際化というのは、世界にあるさまざまな文化と、英語経由、オランダ語経由、中国語経由ではなくて、国と国同士が直接の関係を築くことなのです。国際というのは国と国とのあいだという意味ですから、これは言葉だけではなく、外交においても、文化交流においても、どこかの国、どこかの言葉を経由して---何か国語かを経由していくと、隔靴搔痒の感があります。そうではなくて、直接の関係を築いていくことがほんとうの国際化になる、国際交流になるし、理解にもつながるわけです。

④これは大変なことなんです。大変な努力が必要ですし、時間もかかることですが、たった一つの言語を通してそれができると錯覚していることが、日本の国際化という病気の非常に大きな特徴だと思います。

⑤これがいちばんよく表れているのがサミット、主要国首脳会議です。七カ国だったのが、今、ロシアも加わって八カ国になっています。このサミットの通訳のあり方に、この日本の特徴がいちばんよく表れています。これは国ごとに順ぐりに開かれて、もう二十八年以上たっています。日本でも七年に一度、開催されていて、二〇〇〇年に沖縄サミットが開かれました。その七年前に東京サミットがありました。

⑥このサミットで行われる同時通訳の図式というのがあります。サミットは先ほど言った八カ国が参加します。そして言語は六つの言語を使います。これをいちいち逐次通訳をやっていたら六倍時間がかかりますから、同時通訳を使います。

⑦このサミットの同時通訳は第一回開催以来ずっと二十八年間、この方式です。日本語を使うのは日本、英語を使うのはアメリカ、イギリス、カナダ、フランス語はフランスとカナダ---カナダはフランス語圏がありますから---それからドイツ語はドイツ、イタリア語はイタリア、ロシア語はロシアがそれぞれ使う言語です。

⑧フランスのシラク大統領が発言すると、それは即座に直接、英語、ロシア語、イタリア語、ドイツ語に翻訳されます。ところが、日本語に通訳するには、いったん英語に訳されこの英語から日本語に訳されます。沖縄サミットのときは森さんが首相でした。森さんが日本語で発言すると、これが直接通訳されるのは英語だけ。フランス語にも、ドイツ語にも、イタリア語にも、ロシア語にも、英語を経由して訳されていく、つまり、リレーになってしまうわけです。

⑨どうですか。この図式を見ると、日本語はなにか鎖国時代の長崎の出島みたいな感じがしませんか。それぞれの国は、これだけ緻密な、緊密な関係を築いています。日本は常に英語を経由して築くということになります。

⑩言葉というのは、単に意思を伝えたり、自分の感情や考えを伝える手段であるだけでなく、自分の感情や考えを整理したり、組み立てたりする、つまり、物事を考え

るための手段でもあるのです。言葉はそれぞれその言葉を持って生きてきた民族の歴史や、文化地理、自然、それによって培われた世界観などを映して内包しているものですから、常にこういうふうに英語を経由して伝えられるということは、いつも日本語が英語のフィルターのかかった形でほかの言語に伝えられるということになります。さらには微妙なニュアンスはすべて捨象されてしまいます。

⑩こうして、すべてのサミット参加国が直接コミュニケーションしていたのに対して、日本だけが二十八年ものあいだ、ずっと英語経由になっていたのです。英語経由のフィルターをかけて交流してきたということ、それをなんとも思わなかった。これはかなり異常な事態なんですけれども、この異常事態を異常と思わなかったということこそが、異常だと私は思います。これは国際化というものを錯覚している、つまり、英語、世界最強の国の言語を通せば、世界を知ることができる、世界に発信することができる、世界から情報が取り入れられると錯覚しているところで成り立っているんです。

[ポイント]

1. 筆者の意見に賛成。(第11段落)
2. 英語を通じて世界のすべてを知ることにはできない。(第1段落)
3. 世界共通語によって国際化が実現できるという考えは間違い。(第4段落)
4. サミットで日本語が英語を通じて各国語に翻訳されるのは驚き。(第8段落)
5. 英語依存とアフリカ依存が一体化している。(第2段落, 第11段落)
6. 文化の多様性と言語の多様性は切り離せない。(第10段落)
7. 異文化の理解なしには真の国際化も世界平和もありえない。

【阿佐谷英語塾・解答例】

I am in favor of the author's opinion. In her view, the idea that internationalization can be realized by using one language, the language of the superpower at the time, is just an illusion. I also think that such an idea is a widespread misunderstanding, or misconception. We cannot know all of the world through (the) English (language), though it is now becoming the global language. (66 or 64)

It is almost incredible that(,) at the Summit, Japanese has been translated into other languages not directly but through the filter of English. As the author points out, the fact that Japan has been depending on English for international communication, in reality, means that Japan has been dependent on America, (which has been) the most powerful country in the world, both economically and militarily. However, in order to understand the various [different] cultures, histories, or world views of various [different] peoples in the world, it is necessary to understand their respective languages and communicate with them through these various languages. It is true that this process takes so much time and effort that it does not have a practical advantage in (respect of) efficiency, but we cannot achieve a true internationalization and so a true world peace, without a true understanding of other cultures. (142 or 137)

(208 words in all \*括弧内の語を省くと 201 words)

次の文章を読んで、(1)その内容を150語程度の英語で要約し、(2)その内容についてのあなたの意見を200語程度の英語で書きなさい。(2009年 東京外語・前期)

大学生の我が子に、過剰に干渉する親が目立っている。授業の選択から卒業式の服装まで心配する。まるで上空から子供を見守り続けるヘリコプターのような？

関東地方の私立大学、今春の入学式の直後、事務室の電話が鳴った。中年女性の声で、「第2外国語は何を選択したらいいでしょうか」。職員が「ご本人は何を勉強したいのですか」と聞くと、受話器の向こうで「〇〇ちゃん、あなたはどうかの」と尋ねる声、「本人がいるなら電話に出てこい、と言いたいところなんです」と職員は嘆く。

親からは様々な意見や質問が電話や手紙で寄せられる。「調理実習室のガスコンロは服に火がつきそうで危ない。IH（電磁誘導加熱）にしてほしい」「『きょうは二日酔いだ』と言いながら講義した講師がいたそうだが、何事だ」「卒業式には着物で出席させたいが、学生の何割が着物なのか知っておきたい」。

最近の流行語に「モンスターペアレント」がある。これは、理不尽な要求を一方的に学校側に突きつける親のこと。これに対し、授業のことまで尋ねてくるような過保護、過干渉の親のことを、教育関係者は「ヘリコプターペアレント」と呼ぶ。元々は米国で使われていた言葉だという。まるでヘリコプターで上空を旋回するように常に子供を見守り、何かあると急降下して援助に向かうからだ。

昔から過保護な親はいたが、最近の過保護の特徴は少々違うらしい。小野田正利・大阪大教授（教育制度学）は、大学にまで電話する親たちが増えていることについて、「消費者としての権利意識が強まっていることが背景にある」と指摘する。高い学費を払うのだから、その分のサービスはしてほしいということだろう。また自分も大卒という親が増え、大学に関心が高いことも大きい。

各大学が夏休みシーズンなどに開くオープンキャンパス（大学見学会）には、受験生と一緒に親も多く参加してくる。少子化で厳しい学生獲得競争にさらされている昨今、こうした熱心な親たちこそ大事にしようという大学も増えてきた。

\*『読売新聞』2008年9月13日

**【解説】**この種の課題文の場合、要約には相当苦労するが、自分の意見を述べる分には一転してきわめて平易である。「ヘリコプターペアレント」を基本的に支持するかしないか、あるいはその中間的立場であるかを明らかにしておいて、その理由（根拠）を、本当かどうかは別として、自分や周りの人間の経験を基に、つまり具体例を挙げながら述べていけばよい。課題文のペースに乗って教育論や少子化論、大学経営論を展開する必要はまったくない。もちろん、そうした内容で200語の英語を書ける人はそれでよいが、限られた時間内にそれが出来る受験生は例外だろう。要約とは逆に具体例を挙げて文章をふくらませていく、つまり語数を稼いでいく方法を用いれば、200語程度はたいした語数ではなくなる。出題されるテーマによっては本格的な論述を求められるかもしれないが、その場合でも具体例を挙げる書き方が有効であることに変わりはない。語数が多い自由英作文の基本と考えてよいだろう。

次ページに大学が公開している解答例を載せてある。語数は、解答欄におさまる限り多めに書くことは少しも構わないことがわかるが、指定の語数より余分に書けばそれだけ得点が高くなるということはないだろう。



(2) 意見 (sample) 東京外国語大学がホームページで公開している解答例です。

I was surprised and shocked to know that such parents exist, although, come to think of it, I have a friend at high school whose mother is always worried about how she is doing at school, and she will not let her daughter play volleyball because she might break a finger! When my friend forgets to bring her lunch to school, her mother always brings it for her in time for lunch. My friend says she feels embarrassed when that happens.

On the contrary, my parents do not care much about what I do and they do not ask about my grades, and I feel relieved about that. In fact, I do not think they know that I am sitting for the entrance exam to this university today. I do not think I would like it at all if they started being nosey and asked about every little thing that happened at school. I like playing volleyball, and I can buy sandwiches if I leave my lunchbox at home.

It would be terrible, as a university student, to have a helicopter parent. To me, university is a place where I could be completely free: to study what I want to study, instead of having to study for entrance exams and so on. I would like to be treated as an adult, and enjoy the freedom of an adult. Of course, an adult must take responsibility for what she does, by herself, and I would like to do that, instead of my parents coming down to help me every time something goes wrong. (262 words)

※あえて少し難しめの別解答例を載せておくが、200語の自由英作文という難題であり、あくまでも参考のためである。

**【阿佐谷英語塾・解答例】**

Reading this essay, I have mixed feelings. Frankly speaking, I am not in favor of 'helicopter parents' because their children are not school children (, who need parents' protection and control,) but university students (, who are studying what they have chosen to study). At the same time, I remember an English passage: "Are parents rational about their children? No, parents are not rational because love is not rational. In the parent's mind, even if a child ages, he or she does not grow." (66-82 words)

Until a certain age, I needed parental protection. I vividly remember my mother accompanied me when I went to elementary school for the first time. If I had been by myself, How helpless would I have felt? Needless to say, my mother decided what clothes I should wear. She attended the graduation ceremony of my elementary school and junior high school. She will surely attend the ceremony of my high school and probably that of my university. (76 words)

Gradually or suddenly at a certain age, we grow up and no longer feel the need to be protected, but our parents still feel the need to protect us. (As some children feel it hard to become independent of their parents, so some parents feel it hard to let their children become independent of them.) The smaller the number of children is, the more remarkable this tendency is. This is not a very good thing, but not a very bad thing, for love is not rational. (61-87 words) (203-245 words in all)

あるインターネットの掲示板で、子どもだけの外出をどこまで許すか、という問いかけに、様々な意見が交わされた。次の文章を読んで、(1)その内容を200語程度の英語で要約し、(2)その内容についてのあなたの意見を200語程度の英語で書きなさい。

(2010年 東京外語・前期)

中2男子の母親は、「友達とレストランで夕飯食べてきていい？」と息子に聞かれて驚いた。「私が中学のときは、そんなこと考えたこともなかったし、友達の母親たちが、それを許しているのも信じられない。私の考えが古いのか。皆さんだったらOKしますか？」と問いかけた。

これに対し、「中高生は家で食事をするのが基本」とする意見が多かった。しかし30歳代前半の男性2人からは、「部活の帰りによく友達とファミレスやラーメン屋で夕飯を食べて帰った。都市部かそれ以外か、公立か私立か、部活の有無にもよるのでは？」「体育祭や学校祭の後に焼き肉店で打ち上げをしていた。なぜ中高生の外食がだめなのか、理由が分からない」という声も。

かつてと違い、子どもが気軽に入れる形態の飲食店が増えたせいも、「たこ焼きやハンバーガーくらいならいいが、ファミレスは高校生から」「休日の昼食はいいが、夕食はだめ」など、どこで線引きをするのか、各家庭で苦心している様子もうかがえる。

もう一つ、横浜市在住の女子中学生の母親からは「子どもだけで東京ディズニーランド(TDL)に行くのはOK？」の投稿が。TDLに近い千葉や東京などでは最近、小学校の卒業記念に子どもだけで行くのが人気のようで、「繁華街に行くよりよほど安全」など肯定的な意見が目立った。ただし、「携帯があるからと楽観せず、緊急時の連絡先などを事前によく話し合う」「帰宅時間やおこづかいなどは親同士で相談して足並みをそろえる」などのアドバイスが寄せられた。

子どもだけの外食や外出について、教育評論家の親野智可等(おやのちから)さんは、「年齢や性格、地域事情などによって状況は変わるので、各家庭で判断するしかないが、子どもが納得しなければ、親に隠れて行くようになる」と指摘。外出先でどのような危険が発生しうるかを、親子でノートに書き出すことを勧める。

例えば、夜に外食すれば、帰り道に一人になることも考えられ、犯罪の標的にされやすい。書き出した危険について、どうすれば回避できるか考え、外出先や時間を変更したり、外出自体を断念したりすることも含め、よく話し合う。「おこづかいを何にどれだけ使ったかも、後できちんと報告させるべきでしょう。」

一方、食育の観点から問題を指摘するのは、食育コーディネーターの大村直己さん。中学生のブログには、食べ放題の焼き肉店で「頼みすぎて黒こげの肉がたくさん残った」「ジュースに肉を入れ、じゃんけんで負けたらそれを飲んだ」などの記述があるという。「子どもだけの外食を許す前に、食の知恵やマナーをしっかりと教えるべきだ」と話す。

**【解説】**2009年度の問題に関しては、この種の課題文の場合、要約には相当苦労するが、自分の意見を述べる分には一転してきわめて平易である。「ヘリコプターペアレント」を基本的に支持するかしないか、あるいはその中間的立場であるかを明らかにしておいて、その理由(根拠)を、本当かどうかは別として、自分や周りの人間の経験を基に、つまり具体例を挙げながら述べていけばよい。... 要約とは逆に具体例を挙げて文章をふくらませていく、つまり語数を稼いでいく方法を用いれば、200語程



度はたいした語数ではなくなる。出題されるテーマによっては本格的な論述を求められるかもしれないが、その場合でも具体例を挙げる書き方が有効であることに変わりはない。語数が多い自由英作文の基本と考えてよいだろう、と書いた。

2010年度の問題に関しても、基本的な考え方は同じだが、個人的にはこのテーマは非常に書きにくい。高校卒業を間近にしているか、あるいはすでに卒業している受験生は、小中高生と一括りにされると違和感を覚えるだろう。かといって、ネットに書き込みをした親の立場ではまだないはずだ。自分の過去を振り返って、つまり自分の実感に基づいて自分の意見を書けばよいわけだが、解答例を書こうとしている私自身は実感がわからないのだ。さすがに小学生の時にまったく一人で外食をしたことはなかったと思うが、友達同士や同じ小学生の兄となら経験がある。ディズニーランドはともかく似たような場所や映画館など何度も行っただけ記憶がある。中高生時代は言うまでもない。確かに中学校では下校途中、つまり登校日の生徒同士の外食は校則で禁じられていたように思うが、それほど厳密に施行されていなかった。まして高校生の頃は、そうした校則があるのかどうかも意識していなかった。したがって、以下の解答例は、課題文の内容に沿って平易な表現で語数を稼ぐ書き方の参考としてほしい。

【阿佐谷英語塾・解答例】(Partly adapted)

I was not a little surprised to read the question of a mother of a junior-high-school boy. Why is it not all right for junior-high-school students to eat out with friends, that is to say, without being accompanied by adults? According to this passage, many or most parents think it is natural that high-school students should eat at home. However, in Japan these days, it is not unusual that both parents work full-time or part-time, and often work overtime. So it is almost impossible that all family members eat at home, including high-school students taking part in after-school club activities [doing extracurricular activities] or going to cram school and their brothers or sisters attending university. In some cases, even if junior-high-school students eat at home, it might mean their eating by themselves what they have bought from fast food stores or convenience stores. Therefore, I agree with the male adults who think there is no reason for not allowing high-school students to eat out [prohibiting high-school students from eating out] on their own. (160-164 words)

As an educational critic says, I think, it depends on the circumstances whether or not children can go out or eat out unaccompanied by adults. In my opinion [To my mind], the attitude of the mother quoted above toward her son is far from out of date. Her way of thinking is a reflection of today's security-oriented Japanese society [today's Japanese society, which is forced to emphasize security]. However, to encourage children to be independent is no less important than [as important as] to protect them from dangers is. (73-79 words) (233-243 words in all)

※(1)の「要約」についての解説・解答例は「[英文要約\(要旨要約\)問題の解法](#)」で扱っています。

※この年度は、(2)の大学の解答例は大学のホームページには掲載されていません。

次の文章を読んで、(1)その内容を200語程度の英語に要約し、(2)その内容についてあなたの意見を200語程度の英語で書きなさい。(2011年 東京外語・前期)

スポーツやそのルールについて「なぜ」と問うのは、それをよりよく知りたいということ、その継承や発展に関心があること、またこれに積極的にかかわりたいという意志があることなどを示し、反対に「なぜ」と問うことがないのは、スポーツの発展や衰退にほとんど関心がないことを示すものといってよい。一般的な文化享受とはこのようなものであり、美術家の森村泰昌(もりむらやすまさ)はそれを次のように述べている。「中学生のとき、学校の課外授業で美術館に行ったことが何度かありました。……私はこの『美術鑑賞』が嫌いでした。先生は『さあみなさん自由に見てきなさい』と言います。それで自由にぼんやりながめていましたら、『ばくぜんと見ていてもだめ、もっとよく見ること』と先生のアドバイスがありました。私は素直な生徒でしたので、言われたとおり『もっとよく見ること』をしようと努力しました。しかし『よく見る』とはどうやったらできるのか、チンプンカンプンだったので、ともかく『にらみつける』ことにしました。もちろん壁に掛けられた絵をいくらにらんでも、レポートを書く材料は出てきません」と。またテレビやラジオ等に出演している芸術・芸能の解説者たちもこの森村の先生と同じように「自由に見る」ことを勧めることが多く、それで「レポートが書ける」知見が得られることはほとんどない。森村も「見るだけではだめなんだ『考える』必要もある」と述べ(考えるな!とも述べているが)、テレビの解説者も、その内容は「自由に見る」と矛盾する、考えることと考え方、わかることやわかることの意味などを説くことが多い。これは人びとの文化享受の水準を高めることが重要と考えていることを示すものであり、それはスポーツも同様で、テレビのスポーツ番組に解説者が登場するのは「スポーツがわかる」水準を高めるのが目的である。そして「なぜ」という問いと答えはこのような解説の内容を充実させるもので、技術の特徴や巧拙等に関する「なぜ」と、そのスポーツの発展史に関する「なぜ」への答えが用意されていなければ有能な解説者とはいえず、国民の文化享受の水準を高めることは望むべくもないということになる。

人間の生んだ文化としてのスポーツが、その担い手たちによって継承、発展されてきたというのは、多くを述べるまでもないことで、そのルールや在り方について「なぜ」と問わないことや問うことを教えないのは、これからの担い手の育成を放棄することになる。

ましてスポーツを外来文化として輸入したわが国では、欧米諸国以上に人びとが積極的に「なぜ」と闘わなければならないのであり、そうしなければ「スポーツがわかる」という状況は生まれない。しかし周知のようにわが国では「なぜ」と問うことが非常に少なく、それはスポーツの受容や普及が技能中心主義的に行われてきたからで、その特徴を今日の若者たちは「体育会系」という蔑称で表現している。これの克服、脱皮は「追いつき追い越せ」主義の実践的な批判しかないが、「体育会系」的風土のなかで育ったわが国のスポーツ愛好家たちがこれに気付くことは少なく、「なぜ」と問うことを学ばなかったことと、メダル獲得主義にとりこまれているのがその原因である。\*中村敏雄『増補 オフサイドはなぜ反則か』

【解説】この種の語数の多い要約問題に取り組む際の基本的な姿勢は前年度、前前年度と同じだが、2011年度のほうが内容的には読みにくい。引用されている箇所だけを読む限りでは、森村泰昌の評価・位置付けなど、文章に論理的明快さが欠けている。少なからぬ字数を美術鑑賞に費やしているが、筆者がスポーツを文化として捉えているからであり、出典からしても、主題がスポーツであることは明らかである。美術のことなら詳しいがスポーツはどうもという「非体育会系」の人が、美術鑑賞の話で語数のほとんどを稼いだ場合、採点はどうなるか。少なくとも高得点はもらえないだろう。反対に美術鑑賞の話にはいっさい触れなかった場合、「その内容についてあなたの意見を200語程度の英語で書きなさい」という設問の趣旨からして減点はまずないだろう。東京外語は配点を公表し、また問題と解答例、問題によっては採点基準までホームページで公開する、まともな大学であるが、年度によって方針が異なる。もちろん著作権の問題が絡むとはいえ、それは課題文に関することであり、解答例の公表に影響はないはずだ。一貫した方針を堅持して他大学の範となってほしい。大学が問題を丸ごと掲載する年度もあるために、旺文社の電話帳には掲載されないことがあり、受験生は、赤本が発売されるまで前年度の問題を入手出来ないという不便を被ることになる...

※基本的に書かれている順に書くべき要点を拾ってメモ書きし、それを文章化していくわけだが、自分が英語で表現できそうもない箇所は初めから省いてしまえばよい。語数が足りなければ、具体例をいくつか補足してカバーする。したがって、日本語で意見を述べられる程度の読解力と文章力は大前提にはなるが、基本～標準レベルの英作文の力があれば、「要約」よりも「意見」のほうがはるかに書き易いことは間違いない。

#### 【解答例】

I also think that to ask “why” about sports and their rules is to show [mean/indicate] an interest in them; because questions result from thinking about them. On the other hand, to have no questions about them means not thinking about them or not having an interest in them.

Moreover, to question something does not only means an interest in it but also leads to improving the ability to do it [to question something not only means an interest in it but also leads to improving the ability to do it]. For example, when people do sports, various questions arise. They solve the questions for themselves or by being taught by other people how to solve them. In this way, people get over the questions and make progress. If people have no interest in a certain sport, then they have no questions about it, and so they make no progress in the sport.

In addition, in my opinion, to solve questions about something is to understand the nature of it. In other words, people first have questions about something, then, solve the questions by understanding the nature of it, and finally make progress. In Japan, where we seldom ask why we do sports, and skill-centered sports are widespread [popular], to ask “why” is very important. (193 words)

※上記の解答例は生徒の解答を添削したものです。

次の文章を読んで、(1)その内容を200語程度の英語に要約し、(2)その内容についてあなたの意見を200語程度の英語で書きなさい。(2012年 東京外語・前期)

人間の外見というと、まず、背が高い、低いという身長、うりざねや丸顔という顔の形、丸坊主、長髪、白髪などの髪、口ひげ、あごひげなどのひげ、太っている、痩せているなどの体型というような身体的特徴があげられる。そして、ひとはこのような外見に関してまったく無関心ではなく、お化粧したり、ダイエットしたり、髪を染めたり、さらには整形したりして、それを気にしている。

外見にはまた、白衣、ブルーのワイシャツ、ベレー帽、ジーパン、ミニスカート、リクルート・スタイルなどの服装、金のネックレス、ダイヤモンドの指輪などの装飾品、黄色いハンカチ、ブランドもののバッグ、スイス製の腕時計などの携帯品なども含まれている。

このような外見は目の前の他者に見せることによって、自己を理解してもらう自己表現メディアである。つまり、外見は他者の視覚に訴えて、自己を意識的に表現しようとする面が強い。たとえば、白衣や袈裟などの服装は言葉によらないで自己表現が可能である。一流品の背広はエリート社員としての自己を表現し、ジーンズは自分の若さを表現する。

服装はたんに身を隠したり、覆ったり、あるいは寒さから身を守るだけではなく、自己を表現するものである。実際、人々は新しい服を着ると何か新しい自分を表現したような気になる。そしてまた、服装は自分の地位、職業、性別、年齢、既婚・未婚を表現している。服装は人々の出会いにおいて第一印象を形成するのに重要な役割を果たしている。

そして、このような外見による自己表現は、いまや、言葉の代用品というよりも言葉以上のものを表現し、言葉に代わって新しい自己表現のメディアとなっている。自己表現のメディアのこのような変化は活字文化が衰退し、映像文化が出現した文化のあり方の変化を表している。また、それはモノというよりも、モノが付与する意味が重視される文化への転換を表している。そして、それは同時に外見を重んじる文化の優勢化を表しているといえる。

井上俊(いのうえしゅん)によると、このことが現代の文化、とりわけ現代の都市文化の特質である。つまり、都市はデパートに見られるように見せかけの文化であり、商品を通じての見せものの文化である。そして、見せかけが都市人のコミュニケーションのあり方を表している。

街頭、乗り物、イベント、デパート・商店、旅館・ホテルなどの開放空間において、見知らぬ者同士が相互作用する場合、外見のもつ意味は大きく、その果たす役割は無視できないものである。

見せかけの文化はまた、現代の若者文化の特徴ともなっている。現代の若者にとって外見が大切である。そのため、他の人間の目・視線を非常に気にしている。この他人の視線を気にすることは、しかし、決しておかしいことではない。それは他者の視線を通じて自我が確認されるからである。

そして、他者の視線を気にする場合、その視線をそのまま受け入れているとは限らない。実際は多くの人々は、他者の視線を選択・修正・再構成している。さらにまた、他者の目を意識的に操作することも行われている。ゴフマンは、このことを「印象操作 (impression management)」と呼んでいる。

ゴフマンは人間の行為 (action) を「演技」と見る。彼は日常生活における人々の行為を舞台の上での俳優の演技と同じことだと考える。演技すること、それが人間の行為である、とゴフマンはいう。そして、彼によると、人間の行為は、俳優が観客を意識するように、他の人間を意識してなされるものである。しかも、他の人間に対する印象を良くしようとして、人間は「印象操作」を行っている。

人間が「印象操作」をするのは他の人間が外に現れたものにもとづいて自分を評価するからである。したがって、中身がどうであれ、外見がよければ相手がよく受け取ってくれる。他者の判断の素材として「良い自分」を提供し、また「悪い自分」を隠そうとすることが「印象操作」である。したがって、「印象操作」とは本当の自分とは異なる自分を他の人間に示すことを意味する。

\*船津衛『コミュニケーション・入門---心の中からインターネットまで』

[注] ゴフマン Erving Goffman(1922-1982) アメリカの社会学者

**【解説】** 前年度比べると、課題文は長めだが、書かれている内容はごく常識的なことであり、ほとんど誰もが日常的に実感し、実行していることである。活字文化と映像文化、都市文化、若者文化、そして「印象操作」といった表現も見られ、こうした視点、特に活字文化と映像文化という視点を掘り下げて現代文明を論じれば、日本語の小論文並みになるかもしれないが、よほど英語の力のある人以外はそこまでやる必要はない。あくまでも、英語表現として成り立つ、それなりの内容の文章を200語程度書く力を試されているのだ。

#### **【阿佐谷英語塾・解答例】**

I also think that appearance is very important to people. It seems that people emphasize [lay emphasis on] appearance when they evaluate other people. For example, there are two people before my eyes. One wears shabby [rugged], dirty clothes, and the other wears a clean white shirt. Though I have never spoken to [with] \*either of them, I will have a good image of the one in a clean shirt and will have a bad image of the one wearing [dressed in] dirty clothes. Therefore, the reason we have different images of people, though we have never spoken to them, is that we judge [evaluate] people by their appearance.

However, in my opinion, people pay too much attention to (outward) appearance. As a result, the number of the people who buy things more expensive than things [those] that other people have seems to be increasing. The idea seems to be spread \*that the more expensive things people have, the more respect other people have for them. Some people spend almost all of their money for [on] clothes to make their appearance better [to make themselves look better], but I think that appearance is only a part of what makes people value me highly [not the only means to make people respect me]. (196-211 words)

\*I have never spoken to both people never が both を否定する部分否定になる

\*The idea seems to be spread that... that 以下は The idea と同格

\*the more expensive things people have, the more respect other people have for them: the+比較級, the+比較級 の構文 ≒As people have more expensive things, other people have more respect for them.

※上記の解答例は生徒の解答を添削したものです。